シルバーところざわ

第100号
2007年10月25日

▼もくじ▲
1頁＝会員親睦旅行（写真）
2・3頁＝特集記事 一〇〇号発刊の変遷、理事長、島とみ氏の言葉
4頁＝理事会報告、市長へ要望、
5頁＝就業適正委員会、会員安全就業推進委員会、Q＆Aコーナー
6頁＝職場訪問記、薄学駄話
7頁＝フリースペース（投稿）
8頁＝会員親睦旅行・紀行文
9頁＝悠和会たより、表題公募！
10頁＝豆宣伝、創立30周年記念行事、中長期計画策定、お知らせ

発行：社団法人所沢市シルバー人材センター　編集／広報部会
〒359-1143　所沢市宮本町1－1－2
☎04-2928-8695 ／ FAX04-2924-0630
ホームページアドレス　http://www.sjc.ne.jp/tokorozawa/

創刊　第100号記念

川中島にて　2号車

悠和会 会員親睦旅行 上諏訪温泉

武田神社にて　1号車

旅

甲斐の国、風林火山博、
上諏訪温泉の旅でした。

残暑の日差しが眩しいにもかかわらず、名所の説明には皆、熱心に聞いておられ歴史の好きな人にはたまらなかったでしょうね！

そして風林火山博会場では由布姫の衣装を着て写真撮影を楽しんでいるのを見て、テレビと重ね合わせてしまいました。振り向けば楽しさいっぱいの旅でした。

（小島記）

本誌の表題―シルバーところざわ―を止め、
新しい表題を会員から公募します！！
第101号より、新しく生まれ変わります。
（詳しくは、本誌９頁をご覧下さい）

本誌をぜひお読みください。会員の情報交換の場として活用してください。

100号へ

歩み続けて28年、明日へまた一歩！

「シルバーところざわ」は、高齢者事業団設立1年半後の昭和55年5月に「会員だより」として創刊され、以来28年に亘り、シルバー人材センターに関する様々な情報提供を行ない会員の皆さんとセンターとのパイプ役を担ってきました。皆さんのご理解とご協力を頂き、おかげさまにて今号で100号を迎えました。

当時の増村敏雄理事長は創刊にあたって、事業団がこの紙上で会員の皆様にお伝えし、皆様からの声を掲載し、この機関紙は会員の会話の場としての役割を果してくれるでしょうと語られていました。

当初は事務局長が自ら編集に孤軍奮闘されたとお聞きしている。その後、平成6年に広報部会が発足して第48号から広報部会で編集・発行を担当することになりました。

発行当時は350部で、その間装丁・名称も数回改訂され、現在2300部に至っています。

「シルバーところざわ」の歩みは所沢市シルバー人材センターの歴史でもあり、変遷をひも解けば懐かしく感じることでしょう。

今後もよりわかりやすく、会員の皆さんにご満足いただけるような誌面作りを目指しますので、引き続きご愛読くださいますようお願いします。

（岩﨑記）

シルバーところざわ
と改称　平成2年8月

シルバーだよりと改称
昭和57年5月

創刊号　昭和55年5月

広報誌・歴史のページをたどれば……

昭和55年5月（第1号）「会員だより」創刊号が産声を上げる。
昭和55年11月（第3号）「埼玉県高齢者事業団連絡会議」の発足。
昭和56年2月（第4号）当事業団に高齢化社会の関する総合的対策の調査に埼玉県議会議員等13名視察に訪問。
昭和56年6月（第5号）第3回定期総会開催が始めて掲載される。
昭和56年8月（第6号）新しい事業「おさらい教室」「書道教室」開設、埼玉県内で始めての試み。
昭和57年5月（第1号）社団法人に移行され「社団法人シルバー人材センター所沢市高齢者事業団」に改称。当誌も「シルバーだより」と改称し、新たに第1号で発行。
昭和57年8月（第2号）第3回所沢市民フェスティバルに初参加。
昭和58年9月（第6号）10月26日設立5周年記念大会開催の決定。
昭和61年11月（第18号）9月16・17日事業団初の会員親睦旅行で伊豆・稲取温泉へ106名が参加。
昭和62年12月（第22号）「傘の修理を始めました」の記事。
昭和63年9月（第25号）事業団設立10周年記念に市役所北側並木通りに白・ピンク・紫の3本のサルスベリを植樹。
平成元年1月（第26号）10月25日設立10周年記念大会。
平成元年6月（第28号）4月より毎月配分金支払日に保健婦さんによる血圧測定・健康相談を行う。
平成2年1月（第30号）女性会員123名にアンケート調査をおこなう。
平成2年3月（第31号）婦人部設立の集い。理事長・副理事長・専務理事による職場訪問。
平成2年5月（第32号）4月1日「社団法人所沢市シルバー人材センター」と改称。
平成2年8月（第33号）当誌を「シルバーところざわ」と改称。8月8日～14日、市役所ギャラリーで写真展示による会員増強運動を開催。
平成3年1月（第34号）役員・地区委員・職員合同初県外視察研修、㈱浜松市SCへ。平成3年11月（第37号）会員増強を役員・職員が街頭に出てPR活動。
平成4年3月（第38号）発注者（企業）85社へのアンケート
平成4年6月（第39号）新春懇親会。
平成4年11月（第41号）新理事長に高橋義男氏就任。婦人部主催群馬館林へ初の旅行。
平成5年11月（第45号）会員増強運動目標639名突破の金字塔樹立。
平成6年3月（第46号）所沢商工まつりにセンターPRのため出店。
平成6年8月（第48号）1月18～20日SC会員作品展を開催する。
平成7年8月（第52号）広報部会が発足し、企画・編集を担当。筆耕教室6月スタート。会員の安全就業を願い激励巡回訪問。福祉・家事援助サービス業務を平成8年度から事業化女性会員の積極的参加を期待。

創刊一〇〇号にあたり

理事長　秋山　脩

昭和55年5月、高齢者事業団の「会員だより」が創刊されて以来、現在の「シルバーだより」で100号になるとは・・・。まさに光陰矢の如しとはこの事であろうか。その間代々の広報部員の努力によって、当センターの情報誌として、また会員相互の意見発信の場として育ってきたことは喜ばしい限りです。

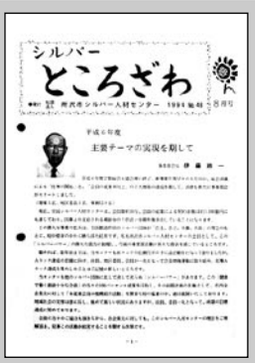
団塊の世代が入会し、来年創立30周年を迎え、ますますその重要性が増しております。と言いますのは、その時、その時代の当センターの進むべき道を会員と関連職員が共に考え、開拓していかなければならないと思うからです。

会員の理解と協力があってこそ、シルバー人材センターの前途に光明が見出せます。会員に親しまれ、愛される事を祈念して100号に寄せる言葉といたします。

次の世紀に向けて

前広報部会長　島　とみ

ついに一〇〇号を迎えられた由、おめでとうございます。後任にバトンを渡した走者としても嬉しい限りです。担当者から「苦労話でも」と勧められましたが、苦労した事は思い出せず、楽しかったことばかり浮かび上がるので弱りました。若手(?)広報部員とわいわい議論した企画会議や校正の場。大概時間を忘れる充実感がありました。目に見えない雑用をこなしてくれた当事の部員皆に今更ながら感謝です。考えてみると100って不思議な数字ですね。100点取った学生は嬉しいし、「100％完成」とダウンロードに成功した老年も心が躍ります。100とは「満ちる」という意味を含んだ一つのけじめなのでしょう。一世紀も100が単位。でも次の世紀に向けて、たゆまず歩まねばなりません。我が広報誌もです。



シルバーところざわ
と改称　平成6年8月

シルバーところざわ
と改称 平成15年1月

平成8年7月(第55号)
平成9年1月(第57号)
平成9年7月(第59号)
平成9年10月(第60号)
平成10年1月(第61号)
平成10年5月(号外1号)
平成10年7月(第63号)
平成10年8月(号外2号)
平成11年1月(第65号)
平成11年6月(第67号)
平成11年10月(第68号)
平成12年1月(第69号)
平成12年10月(第72号)
平成13年1月(第73号)
平成13年4月(第74号)
平成14年1月(第77号)
平成14年4月(第78号)
平成14年7月(第79号)
平成15年1月(第81号)
平成15年4月(第82号)
平成15年10月(第84号)
平成16年4月(第86号)
平成16年10月(第88号)
平成17年1月(第89号)
平成17年4月(第90号)
平成18年1月(第93号)
平成18年4月(第94号)
平成18年10月(第96号)
平成19年1月(第97号)
平成19年4月(第98号)

創立5周年 昭和58年
創立10周年 昭和63年
創立15周年 平成5年
創立20周年 平成10年
創立25周年 平成15年
創立30周年 平成20年

理事長に高野英二氏。
新年号新企画・今年の干支生まれの会員を紹介。装丁を右開き記事4段縦組みに変更。
東京都北区SCより25名視察来訪。
レタリングをやってみませんか、説明会に60名参加。「職場めぐり・こんな仕事こんな職場」掲載始まる。
表紙カラー刷り。
号外版第1号発行。
5月29日創立20周年記念式典・祝賀会を開催。
西武ドーム球場のフリーマーケットに出店。
就業機会開拓専門員の実施。シニアワークプログラム事業講演会「シルバーエイジを生きる」早大教授・上里一郎氏
所沢シルバー人材センター親睦会設立総会の開催。「薄学駄識」掲載始まる。
シルバー人材センター事業推進について所沢市長へ要望。
保健婦・和田喜美子さんの「健康相談室より」掲載始まる。
「職場めぐり・こんな仕事こんな職場」を「職場訪問記」に改題。
「武蔵野散歩」掲載始まる。
「薄学駄識」を「薄学駄話」に改題。
新企画・新春対談、彫刻家・田村興造氏と高野理事長対談。
「健康相談室より」を「一口健康メモ」に改題。
新理事長に秋山脩氏就任。
装丁をA4判サイズに改訂。
特集記事「シルバー人材センター25年の変遷」。「地区だより」掲載される。
「フリースペース」欄を設ける。
就業の基準に関する要綱が決定。
「就業の基準に関する要綱」が10月1日から施行される。
特集記事「My所沢」私の写した自慢の写真。
福祉・家事援助サービス事業従事者へのアンケート結果。
俳優・声優増岡弘さんを迎えて「人生は舞台、あなたは主役」。
会員互助会(仮称)の骨子まとまる。※のちに悠和会となる。
「悠和会たより」欄設ける。
亥年生まれの会員参加の座談会。「理事会報告」掲載始まる。
発注者、賛助会員様からのお言葉。「Q＆Aコーナー」を設ける。

「シルバーところざわ一〇〇号に向けて」

会員の広場に投稿を！

事務局次長　山川裕二

昭和55年5月「会員だより」創刊1号が発刊されてから28年が過ぎました。思えば当初は事務局長自身が会員皆様に事業の内容等を周知して頂くために原稿集めから、割付・編集を行い、事務局と会員の情報交換の場として、その役割を果たしてきました。

時の過ぎるのは早く発刊されて100号となるまでには、色々な苦労があったと思いますが、今後の「シルバーところざわ」は会員のひろば（現在・過去の就業会員を対象に、失敗談等をユニークに紹介）、各地区の情報等を掲載するなど、新たなページを検討したり、懸賞付クイズ及び抽選会（会員番号）など、より全会員共通テーマを決めて原稿の依頼をお願いします。

現在も「シルバーところざわ」は大変、楽しく講読されております。広報部会員はご苦労と思いますが是非、多くの会員が参加できる誌面作りを期待したいと思います。

理事会報告

平成 19 年度 (3 回) 理事会　平成 19.6.29(金)

審議事項　1. 正会員として入会を求める件について
新入会員登録者 34 人、退会者 56 人＊承認

報告事項　1. 各部会・委員会活動状況について
事務局より、中・長期計画策定委員会発足委員の構成発表

平成 19 年度 (4 回）理事会　平成 19.7.31(火)

審議事項　1. 定款第 2 章 5 条による正会員及び賛助会員として入会者の承認を求める件について
1) 新正会員登録者 23 人、退会者 69 人＊承認
2) 新賛助会員登録者 1 人

報告事項　1. 各部会・委員会活動状況について悠和会より市民フェステバルに参加するにあたり理事会の協力要請

平成 19 年度 (5 回）理事会　平成 19.8.31(金)

審議事項　1. 正会員として入会を求める件について
新入会員登録者 13 人、退会者 7 人＊承認

報告事項　1. 各部会・委員会活動状況について
事務局より、8 月 31 日に斉藤市長を訪問し、シルバー人材センター事業推進に市の支援と助成を要請する

登録会員動向（平成 19.5.31 ～ 19.8.31）

登録会員動向	男	女	計
平成 19.5.31 現在	1,530 人	623 人	2,153 人
平成 19.8.31 現在	1,484 人	607 人	2,091 人
賛助会員	0 人	1 人	1 人

(田中記)

市長へ要望

去る8月31日秋山理事長、田中・小林両副理事長、森田専務理事は、所沢市長に対し、全国シルバー人材センター定期総会での決議書を提出すると共に、今年度上半期の業績も昨年より上向いている事、団塊世代の退職で会員が増えつつある事などを報告。

高齢者が働く事の意義、シルバー人材センター事業努力について一層のご理解をいただき、さらに公共事業の発注、センター事業の更なる拡充・強化のため、支援を頂くよう市長に要望した。これらの要望に対し、市としてもできる限り支援する旨のお答えを頂いた。

市長に要望書を手渡す

就業適正委員会より

委員長　前田　元

年齢と健康を見据えて
安全な就業を致しましょう。

所沢市シルバー人材センターでは、安全就業の持続のため、会員の年齢と健康を考慮して、就業年齢制限75歳（自動車運転業務70歳）という基準を設けています。

この事は75歳になった会員は76歳以上でも就業可能と思われる仕事に移行していただきますと云うものです。

従って、基準の対象となる会員は新しい仕事についてセンターとよく相談して頂き、スムーズに移行されますようお願いいたします。

就業適正委員会は、要綱に基づく安全就業の継続に向けて努力してまいります。

◆就業基準に関する要綱の抜粋

（就業年齢制限）

第7条　就業年齢制限設定の職種は、次の各号に定めるところによる。

（1）自動車運転業務　70歳

（2）その他の業務　75歳

（3）上記の年齢基準を超える会員は毎年4月1日と10月1日を基準として、就業適正委員会において健康及び業務状況を考慮して、安全就業の適否について確認、相談を行います。

会員安全就業推進委員会よりのお知らせ

①シルバードライバードックでの「安全運転診断」を実施中です

運転業務就業中の会員の皆様には、委員会から「受講のお願い」文を送り、ドライバードックに参加していただいております。

それ以外の会員は、自由参加ですが受講された会員からは「大変役に立った」、「自分の弱点に気がついた」と好評です。

受講料は無料ですので、多くの会員の参加をお待ちしています。

シルバーは
いつでもどこでも
安全就業

②十月は安全就業強化月間です

当センターでは10月1日から1ヶ月間を安全就業強化月間と定め、「事故セロ」を目指して、活動しています。

主な内容は

○安全ポスターの就業先への配布
○理事会による安全パトロール
○植木職安全会議の開催…などです。

なお、4月から9月15日までに会員事故が8件（うち3件が入院事故）発生しています。

あとで「事故を起こさなければ…」と後悔しないよう、安全就業を心掛けるようにお願いします。

Q&Aコーナー

会員からの質問にお答えします

Q：就業先の契約説明を受け、就業した後、発注者側から契約外の仕事をたのまれた場合、ビジネスライクに割り切って断ればよいのか、相手を傷つけないように断る対応方法を教えてください。

A：個々の具体的な契約内容等については、就業配置を行う時点で会員へ詳細説明を行って就業をして頂いております。センターから提供された仕事以外の作業はたとえ好意であっても契約以外の就業は行わないで下さい。

結果的に会員個々による個別的・恣意的な就業が発生することとなりセンターにおける就業の公平性を保つことは困難となるので、十分に留意して下さい。しかしながら、相手に傷つけないように断る場合は事務局にご相談下さい。

おじゃましまーす 職場訪問記（41）

▼㈱マスダック（封入作業）

7月27日（金）、梅雨明けかと思わせる真っ青な空の下、車を走らせ小手指元町の株式会社マスダックを訪問した。旧社名は新日本機械工業株式会社、19年1月に社名変更したばかりである。旧社名はご存知の方も多いと思う。菓子製造機を製作する会社で、自社の機械でお菓子も作っている。

受付で、総合企画部企画広報課の丸山様の出迎えを受け、センター会員のいる事務室へと向かう。

日々お客様を迎えているショールームの入り口にはマスダックの機械で作られるさまざまな種類の菓子が綺麗に陳列され、飾り棚横の開口部から部屋を覗くと大型の菓子製造機が一望できるようになっている。

マスダックでは40年前から毎月全国のお菓子屋さんやパン屋さんに月刊誌「マスダックニュース」を送付している。「40年のうちシルバーさんとのお付き合いは20年位になるのですよ」と丸山さんは言われた。当センターは封入作業の外、資材購買事務作業、清掃作業などの発注を頂いている。

封入作業は会員の清水安子さんと中村スエさんが請け負っている。案内された室内にはテーブルの上にPR誌の「マスダックニュース」と案内状、それらを入れる封筒が積み上げられていた。

仕事は月に2日間、約3300通の封入作業である。仕事は2日間の間に終えればよく、作業時間の調整は2人の都合に合わせて出来るとのことである。「年に何回かは封入物が増え部屋中書類だらけになることもあるのよ」と言いながらそれもまた楽しい様子でした。お二人は、「会社の方々は私たちを分けへだてなく、同等に扱ってくれ、友達感覚でお付き合いしてくださるのよ」と言って喜んでおられた。丸山さんに「マスダックで何かもっと仕事を作ってくださるといいな」と話をしながら手を止めず手際よくこなしている。会員2人だけの整頓された室内には、植木なども置いてあり、清潔で気持ちよくとても恵まれた環境であった。

（小島、志賀記）

▼小手指公民館本館

7月27日午後8時、澤田守夫さんにお話を伺った、この日は相棒の原田さんが受付を担当、月曜日（8時30分～5時）、夜間（午後5時～10時）6名の輪番制で勤務、受付と補助作業を分担。夜間は詩吟、ダンスなど利用する方も多い。

澤田さんはソフトボールをしていたが、60歳を過ぎると、70％の力で、というのが信条。11の公民館に従事する方々の集いが毎月ありリーダとして参加されている。

（阪口記）

薄学駄話（はくがくだわー）

『野暮』

野暮は、わからず屋、不粋者、融通のきかない人というような意味のことばです。これにはいろいろな説がありますが、武蔵の国北多摩郡谷保村（現 国立市）に、谷保天満宮がありますが、江戸時代の末にこの谷保天満宮のご開帳を山の手の目白でやったことがありました。当時、粋（いき）なことを誇りにする江戸っ子たちにはその谷保天満宮の宮司さんなどが、なんとなく野暮に見えたらしく、川柳にも「神ならば出雲（いずも）の国に行くべきを目白で開帳谷保の天神」と馬鹿にしたようなものがあります。それで、粋（いき）でない人、田舎くさい人という意味で「やぼ」とか「やぼてん」と言うようになったそうです。近頃では「やぼな」と言うかわりに「センスがない」という言葉を使う人もありますが、これはちょっと意味が違うようです。

（田中記）

フリースペース

我が人生観

中央地区　門脇富雄

７０、４５、５０、３０、０、この数字一体何?更に８０、?、６０、４０、８０２０、に置き換えてみた。解明するに、現在我が人生年齢70歳、結婚生活45年、嗜好品の酒、たばこを呑み続けて50年、糖尿病と診断されて30年、虫歯０本である。更に人生80歳を目標にし、結婚生活伴侶が健在なるも?とした。しかし、金婚式は迎えられそう。酒、たばこ、体に悪いと知りつつ節度を守り酒は休肝日を設け、たばこは一日10本前後を目安にしている。適度の運動は不可欠。糖尿病、果たして酒、たばこを断ち切れば完治するか、これまた疑問。であるならば、あと10年?さらなる精進をして生活習慣病と上手に長く付き合う術を心得ておかねばならない事を念頭に置く。

やはり人間生身の体であり無理、油断すれば悪玉が容赦なく己の身体に襲ってくるだろう。節度こそ絶対条件、転ばぬ先の杖である。そして己の体を知るのは己が名医であると、８０２０、80歳にして自前の歯20本は確保したい。未だに歯の痛みを知らぬ果報者である。人生80年時代、生きる力は余生を楽しく趣味の輪を広げ、無理、無駄、無精しない三無主義を前向きに自分に合ったライフスタイル維持こそ、我が人生の心の糧として日々是好日でありたいと思っています。

短歌

富岡地区　沓澤勝美

「老い」と言う
　この現実に挑戦す
いつも所沢マラソン
　青春今年も走るぞ

「里芋（いも）の葉っぱ　笑っている」と児童（こ）は言うたうれしき事
たぶんあるだろうと

小手指地区　近藤宗一

妻からの
手塩にかけたおむすびを
噛しむ秋の
勤めおわりぬ

初作業の思いで

「東原遺跡第一次発掘調査」補助

小手指地区　近藤　宗一

春浅き17年2月10日「所沢市立埋蔵文化財調査センター」発注、発掘調査支援補助作業の事前説明会を所沢市シルバー人材センターで受講し、2月14日～3月25日まで20日間を就業しました。

さて初めての発掘補助作業ですが「表土すきとりと排出」を主体に実地指導を受けながら始めました。

初日の午前中はペースがわからず、夢中ですきとりをしていたところ、指導員から少しペースが早いようだね!」とアドバイスを貰いました。

その日の晩は筋肉痛で打ちのめされた様になり、入浴後に夕食を済ませ19時半頃から就寝してしまいました。

その後、風邪のためか鼻水が止まらず2週間位辛い日々が続きましたが、インフルエンザと分かり処方薬により全快しました。

体調が悪い間も頑張れたのは、これも偏に調査センター長による現場巡回指導と併せた「発掘土器類の説明」を頂き、作業にも興味が湧き励みとなったためと思っています。貴重な体験をしました。

北野に居住しながら、「埋蔵文化財センター」をいつも横目で見ながら脇道を通っていましたが、3月7日からは此方へ出向いての作業になりました。

「発掘品」をぬるま湯の中で歯ブラシで洗浄、分類番号のカードを添え、新聞紙を敷いた棚へ並べ、乾燥させる作業に注力させて頂きました。

3月18日にはセンター長が館内の案内と「所沢市・先祖達のあゆみ」等の説明に時間を割いてくださいました。誠に有難い経験をさせていただきました。

私も知人や友人へ「埋蔵文化財センター（ミヤコタナゴ保存）」のPRと見学の機会を作りたいと思っています。

春浅き　東の原で
　縄文の
知恵と文化に
　触れた喜び

悠和会親睦旅行

上諏訪温泉（9月18～19日）

風林火山の地を訪ねる

柳瀬地区　峠　正一

今回は、大河ドラマ『風林火山』ゆかりの地を訪ねる旅でありました。

出発時刻はるか前から、バスの周りは会員のエネルギッシュな声に満ちていました.

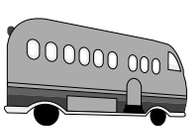
主な見学先は、ドラマに出る「鮮燭が崎の館」跡に建てられた武田神社、大河ドラマにちなんだ「甲斐の国・風林火山博」、勘助終焉といわれる川中島古戦場跡など。

大宴会　「ホテル紅や」

上諏訪のホテルでの大宴会、カラオケ大会はいやがうえにも盛り上がり、詩吟も舞踊もあり、にぎやかな談笑はいつまでもつきず、私のように初参加の者にも、来年もぜひ参加への期待を抱かせます。

見て5時過ぎ諏訪湖のほとり『ホテル紅や』に到着。大きな浴室からは諏訪湖を前に山々に沈む夕陽、なんともきれいな茜雲、由布姫もこの落日を見られしかと、吾にもなく落涙・・。

和気あいあいの大宴会、芸達者の唄踊り。翌日も秋晴れの中、諏訪大社、川中島古戦場をまわり事故も無く所沢帰着。会員同士の交流も深まり、今後のセンター活動に励みがつくと確信したよき旅となりました。



親睦旅行に参加して

山口地区　中西　久美子

主役気分で

楽しい旅でした 来年はご一緒に

9月18日午前9時《風林火山》の舞台甲斐の国に向け出発。総勢95名の猛者共也。途中武田神社にて必勝祈願？　昇仙峡の奇岩怪石に見とれ、猛暑のなかの熱き《ほうとう》にほうほうの体で退散。風林火山博を

悠和会　第2回

会員親睦旅行決算書

＜収入の部＞

摘　要	金　額（円）	備　　考
会　　費	1,800,000	20,000円 × 90名
事務局参加費	110,000	22,000円 ×　5名
悠和会補助金	173,050	
祝　　金	13,000	秋山理事長、小林副理事長、橋本英世
計	2,096,050	

＜支出の部＞

摘　要	金　額（円）	備　　考
宿泊旅行費	2,090,000	22,000円 ×95名 （宿泊費、バス代、昼食代他）
写真、お土産代	6,050	
計	2,096,050	

武田神社

悠和会たより

野球観戦に参加して

新所沢地区　渕　良子

第1回悠和会主催による観戦会に友達と参加しました。役員の案内で会場の獅子に着きました。

席では、はじめて顔を合わせる人が多く、同席に多少の不安はありましたが、皆さんすぐに会話も弾み沢山の料理や飲み物で私には楽しいひと時でした。野球場では指定席が用意され、試合は西武対楽天。途中からの応援でしたが楽天が点数を入れ西武は0点。

西武側ではメガホンや太鼓を叩き、ガンバレ、ガンバレ!の声援。6回~7回に西武が点数を重ね逆転、歓声と喜びの顔、顔。私もこの中にいるのよ!と言いたくなる気持ち。

生で観戦試合の素晴らしさを体験できたことに感謝しつつ帰路に着きました。

西武ライオンズの攻撃

応援にも熱が入る！

花火大会に参加して

中央地区　門脇　富雄

悠和会主催第二弾「花火大会の夕べ」が8月8日（日）西武ゆうえんちで行われた。

天気予報では雨マークがついていたが、雨よ降らないでくれと祈る気持ちは満員の人出で埋まった皆の願いだろう。日が暮れかかったころ、涼風がふいてきた。総勢50数名特設舞台の一等席に陣取り強烈な生サンバ踊りのリズムに酔い、大輪の花火の競演が見事であった。踊り子も客席をまわって喜ばれ記念写真もあちらこちらで大人気であった。地元で花火、大ジョッキー片手に会員のみなさんと楽しむことがなによりであり、悠和会の最も身近に接する「和」を大切にする場でありたいと思う。

満天の空、大輪の花々…

本誌 表題の改名募集！

「シルバーところざわ」の100号を機会に、更なる飛躍をと、表題のネーミングを会員の皆様から公募します。奮ってご応募くださ~い！

◆応募方法と受付

お手持ちの用紙に、表題名をお書きいただき、氏名・会員番号・地区名を忘れずに明記のうえ、シルバー人材センター広報部会宛に提出してください。

○ファックスをお持ちの方は、FAX番号2924・0630で送信。または郵便にて送付ください。

◆応募締切日

平成19年11月9日（金）必着。

応募の中から厳粛に選考させていただき、採用決定の表題は本誌第101号（平成20年1月25日発行）より掲載することになります。

＊採用された方には記念品（粗品）を用意しております。

なお、同名で応募多数の場合は抽選といたします。

お知らせ

◎**健康相談日**
11月15日(木)午後
12月20日(木)午後
1月17日(木)午後

◎**就業相談日**
毎週水曜日（午後1時～3時）
就業相談を実施しています。
未就業会員の方は是非、
ご相談ください。

《シルバー豆宣伝》

第28回市民フェスティバル参加！
（会場：所沢市航空記念公園）
今年もセンター悠和会が主体となり
10月27日(土)・28日(日)に
市民フェスティバルに参加します。
福祉団体コーナーの一角でシルバー人材センターのＰＲに努めております。皆様、お誘い合わせの上、お立ち寄りください。

中・長期計画策定委員会

当センターでは、急速に進む高齢化の中で、高齢者の就業機会の増大、福祉の増進等を図り、高齢者の能力を活かした地域社会づくりのため、より効果的なセンター組織運営に取り組むことを目的として「中・長期計画策定委員会」を設置し、委員によって「**計画立案**」の作業をおこなっております。

「**計画立案**」について、会員皆様からの多くのご意見・要望等をお聞かせください。参考にさせて頂きますので、センターの中・長期計画策定委員会宛へご提案くださいますようお願いいたします。

（岩崎記）

創立３０周年記念行事

実行委員会より　［1］

平成 20 年秋には創立 30 周年を迎えます。平成 19 年 3 月 28 日に同実行委員会が 20 名のメンバーで発足しました。

実行委員長を田中文雄氏として、

「記念式典・祝賀会」、「記念誌」、「イベント」の三分科会で構成され、それぞれの企画検討をすることになりました。

式典・祝賀会の日時は左記の通り決まりました。

実施日　平成20年10月15日(水)
式　典　13時～15時
祝賀会　15時より
会　場　くすのきホール

以降は各分科会の検討中の事項

★記念講演は著名人を予定、その他記念演奏会等
★記念誌作成について30周年に因んだ30人座談会・30の職場写真
★イベントとして、悠和会と協賛の「会員作品展」、「ボランティア活動」、「ボウリング大会」等

（中村記）

記念誌分科会よりお願い！
こぼれ話のページを作る計画をしています。
会員の皆様の寄稿を期待しています。
＊ふるってご応募ください！

本誌について、ご意見等がありましたら広報部会宛にご提案ください。お待ちしております。